

## 公的資金による研究への無料のインターネットアクセスの後押し (Richard Wray)

Wray, Richard. Boost for free internet access to public funded research.

*The Guardian*, Thursday June 29, 2006. <<http://business.guardian.co.uk/story/0,,1808203,00.html>>

公的資金による学術研究 (publicly funded academic research) へのオープンアクセスの推進が、昨日統括機関による購読雑誌論文のインターネット上の無料設置の促進で後押しされた。

だが、その機関、傘下の 8 団体が公的資金を年間 2 兆 5 千億ポンド学者に助成する、英国研究評議会 (Research Council UK) は、オープンアクセスへの当初の支援を弱めたように見える。

1 年前に輪郭がまとめられた、その機関の予備的提案は、助成の条件として研究者が著作をできるだけ早く無料で利用できるオンライン・アーカイブに保管することを提案していた。昨日 (6 月 28 日)、その機関は前言を撤回し、研究者にオープンアクセスを要求するかどうかを自ら判断するのは 8 つの研究評議会次第であるという。

研究者による論文のアーカイビングを義務化するのは、従来の雑誌出版社から猛反対に遭った。彼らはその動きが購読契約の多大の減少を招き、それらの収益に依存している多くの学会をないがしろかねない、と警告した。

医学研究評議会 (Medical Research Council)、経済・社会研究評議会 (Economic and Social Research Council) および生物科学研究評議会 (Biological Sciences Research Council) はすべてこの 10 月からオンラインアーカイビングを助成の条件として選択した。研究評議会 (Research Councils) の中央研究所評議会 (Council for the Central Laboratory) は、単に研究者がアーカイブ「すべきである」と述べたに過ぎない。残りの 4 つの評議会はその問題についてまだ判断を下していない。

統括機関の立場について、ウェルカム財団 (Wellcome Trust) および高等教育における IT についての調整責任を持つ、合同情報システム委員会 (JISC) が賞賛している一方で、他の関連するオープンアクセス・イニシアティブはそれほど感銘を受けていなかった。

オープンアクセスを支持するハンプシャーのサウザンプトン大学 (University of Southampton) の Stevan Harnad は、「個々の評議会がオープンアクセス・セルフアーカイビングを義務化するかどうかを自ら判断することを認める青信号 (the green light) は良くもあり悪くもある」と言った。「個々の評議会が望むなら義務化できるのは良いが、すべての評議会が合意に達することができないのは悪い。」